

大賞決定

今回で6回目を迎えた増田誠大賞。今年も市内からたくさんの方の力作が寄せられ、応募総数593点の中から厳正な審査の結果、一般の部の大賞には、古川渡にお住まいの谷内昭正さん、中学生の部の大賞には、都留第二中学校3年の小林由未子さん、小学生の部の大賞には、谷村第一小学校2年の高部響介くんがそれぞれ選ばれました。

これらの大賞作品と左ページ表の入選・佳作作品は、12月21日（日）までふるさと会館1階展示ホールに展示してあります。

一般の部大賞

「サンマルタン運河」 谷内昭正さん

寸評

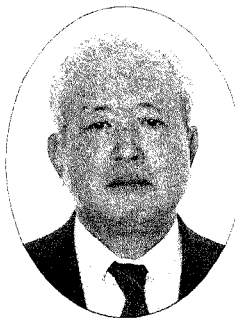
この大賞作品は、増田誠画伯が終生愛したパリを題材としている。パリの中心にあるサンマルタン運河は、橋の様に水門を開閉して水高を調整し水路の要となる。水の街パリの要所であり、市民に生活を、また観光の名所としても名高く、画伯を始めユトリロなど幾多の作家も描いている。



路傍の情景、また水面には建物のシルエットが投影されて美しい。構図も良く、運河の水の表現も美しい。建造物と運河の区分けは大胆だが、水面の描写が巧みであり、不自然さを感じさせない堂々とした作品である。

全体的に落ち着いたパステル調の色彩で統一された秀作である。

絵を見るのは昔から好きで、美術館などにもよく行っていました。時間的に余裕の出始めた六十歳ごろから絵や写真の模写を始めましたが、本格的に絵を自分で描き始めたのは六十五歳からです。絵は誰にでも描けると思いますが、必要なことは、恐ろしげに思いますが、必描く勇氣でしよう。大切なのはこの勇氣と、いろいろな人の絵をたくさん見ることです。



この作品は、平成八年秋、パリー絵画クラブで増田画伯の足跡を訪ねた際の印象をもとに制作しました。



小学生の部大賞

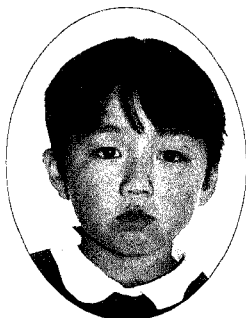
「かぶと虫見つけた」 高部響介くん

寸評

「大きくがっちりとした」大胆な構成と、単純化した描写がバランス良く調和することによって、主題をより明確に表現している。動きのある豊かな表現力には訴えるものがあり、かぶと虫を見つけた子どもの表情は素晴らしい。



しっかりと塗り込んだ絵の具、かぶと虫を探ろうとする少年の顔の表情、かぶと虫に手を伸ばそうとする喜びの表情、かぶと虫が逃げないように忍び寄る表現のそれぞれが素晴らしく、心を捕らえた。とにかくこの構図は考えつかないものであるが、子どもの素直な喜び、感動がよく表現されている良い作品である。



今回、増田誠大賞に選ばれてとてもうれしかったです。お父さんもお母さんも喜んでくれました。絵を書くのはとっても好きで、いつもは、車の絵を描いています。この絵は、韮崎市の林の中でかぶと虫を見つけた時の絵です。お父さんと一緒に取ろうとがんばりました。僕が木に登ってあと少しのところまでになったところです。

